



# 学校だより

## 新しい年の幕開け

～多くの事柄から考えること～

校長 高山 直也

今年1月1日から日本列島は大変なことになってしまいました。彼の地では今でも救助・捜索活動が行われ、数万という方々が避難生活を送っている中で、季節は一年で一番寒い時期を迎えます。被害の大きい地域では学校再開の目途も立ちません。どうか一日も早い復興を祈るばかりです。年末は世界で止まぬ紛争の報道で心を痛め、年始は北陸だけでなく、東京でも他の地方でも事件・事故が相次ぎました。2024年の幕開けが何とも不安に満ちたものになりましたが、今年の干支は「辰」です。登り龍の如く、これから日本も世界も運気が上昇していくことを願ってやみません。

そういった年末から年始にかけての事柄や、齢90を過ぎる実母や義母の生き様に接し、また同年代の早すぎる逝去に遭遇しながら、さて還暦を過ぎようとする今、これから自分は何を目標に生き、学校は何を教育の中心にし、どんな子供を育てていくのかが頭の中を渦巻きました。戦争を経験し、しかし今穏やかに長寿を全うしている、その実母や義母が発してきた言葉の中に、珠玉の生き方を感じます。

「命はあって当たり前じゃない。だから当たり前で生きているのを幸せと感ずることが大切。だって数多（あまた）いるご先祖様のおかげで今を生きてるって奇跡でしょ？感動でしょ？すごく幸せでしょ？」

「生き甲斐って言うと、人様の為に働いてたまに感謝された時かな。ありがとうって嬉しいね。今は全部世話になって申し訳ないけど、ありがたいありがたいって思うことが今じゃ生き甲斐（笑）。」

「平和は意識して作るものだよ。「輪（和）」は自然には生まれず、みんなで作るでしょ。いつも他人を思いやることを真ん中にして生活するだけでいい。それで「輪（和）」ができる。戦争や争いほど辛いものは無いよ。」

誰かのため社会のために頭を使って働くこと、その時に、意識すべきは、「平和」であり、「人間として生きる(他者を思いやる)」ことであり、「自然・地球」と共存すること…。今こそ学ぶべきことを保護者・地域の皆さんと共有しながら、未来を創る子供たちに、しっかりと伝えていく2024年にしていきたいと思ひます。

今年もどうぞよろしくお願ひいたします。



## 「自分の思いや考えを、自信をもって表現しよう！」

研究主任 玉木 脩一

今年度、本校は『目的意識をもち・相手意識を働かせながら表現できる児童の育成』を研究主題とし、校内研究を進めています。自分の思いや考えを、目的や相手に応じて、表情豊かに、いきいきとした様子で伝え合う。白金小のあちこちで、そのような子供たちの姿が見られたらとてもすてきなと思います。また、このような力は、学校教育の場面に限らず、よりよい社会をつくる上で基盤となる大切な資質・能力であると考えています。そこで、白金小では「目的意識・相手意識をもたせるための工夫」や『「内容」と「伝え方」が充実するための工夫』に焦点を当てた指導法の研究をしています。特に、最近「個別最適な学び」をキーワードとして、一人一人が「学ぶ内容」「学び方」「学ぶ速度」などを選択して、一人一人に合った学びが充実するように研究を深めています。

2学期は、9月に第5学年、11月に第1学年が研究授業を行いました。第5学年の社会の学習では、白金小学校で食べているお米がどこから来ているか、どうやって作られているかなどについて学んだことを、白金小学校のみんなに伝える学習を行いました。一人一人の発表が、相手により伝わるようにするために、タブレットを用いて瞬時にアドバイスを送り合う姿はさすが高学年でした。また第1学年の国語の学習では自分が好きな本を友達に紹介して、友達にも好きになってもらえるよう、お話の面白さを伝え合いました。一人一人が学習の見通しをもち、自分の学ぶ速さに合わせてまとめたり、発表したりする姿が見られ、1年生でもこんなすごい学びが実現できるのかと研究が深まりました。

3学期は第3・4学年も研究授業を行います。研究授業を中心に、日々の実践を積み重ね、目的意識をもち、相手意識を働かせながら表現できる子供たちを育成していきます。